

持続可能な調達

ニチレイフーズ 冷凍野菜における取り組み

ニチレイフーズは、安全・安心でおいしい冷凍野菜を安定供給するために、現地生産者と品質向上の取り組みを行うとともに、持続可能な調達を目指して、土壌改良にも取り組んでいます。

冷凍野菜の品質管理

ニチレイフーズが中国で調達する冷凍野菜原料は、自社基準をクリアした認定農場で栽培されています。それらの農場は定期的に農場指導員が巡回し、適正に管理されていることを確認しています。特に農薬については、選定、購入、保管、使用までを厳格に管理しています。収穫された原料は、工場入荷後、選別・洗浄・加工・凍結・検品と徹底した品質管理のもと、製品化されます。品質確認として、最終包装前に現地検査機関にて残留農薬検査を、出荷時には生産工場の検査室で

衛生検査を実施しています。さらに、輸入時には、ニチレイ食品安全センターで残留農薬、衛生状態などの検査を実施し、安全性を確保しています。また、製品には管理コードが印字され、このコードをトレースすることで、畑での栽培管理状況から工場での生産状況までを確認できる体制(トレースバックシステム)となっています。

土壌改良への取り組み

栽培管理・農薬管理・トレースバックシステム管理の徹底に加えて、野菜栽培事業のさらなる取り組みとして、中長期的な視点での土壌改良を進めています。

土壌改良によって土質が軟らかくなると、耕作しやすくなるだけでなく、種をまいた後も発芽がそろい、水がたまりにくく、根に良好な生育環境が形成されるため、作物の健全な生長を促します。このような作物は病気にも強いいため、農薬の使用量も抑えることができます。さらに環境にやさしく、おいしい冷凍野菜づくりを目指して、これからも現地生産工場との強い協調のもと、地道な取り組みを続けていきます。



農場耕起の様子



塩あじえだまめ



農場

ニチレイフーズのCSR調達方針

ニチレイフーズは、ニチレイグループ「6つの責任」の考えのもと、取り引きにあたっては、下記5項目を基本方針として掲げています。

1. 私たちは、複数のお取引先様に対して公平に窓口を開放します。
2. 私たちは、国内外の諸法規を遵守し、企業倫理に基づいた公正な取引をおこないます。
3. 私たちは、調達活動を通じて得た情報は厳格に管理します。
4. 私たちは、環境への影響に十分配慮します。
5. 私たちは、市場ニーズに応えるためQCD(品質、コスト、供給)を追求します。

調達段階での社会的責任を果たすため、取引先であるパートナー企業のご支援・ご協力のもと、以下の6要件について遵守を求めています。また、工場品質監査時に重点項目のチェックを実施するとともに、チェックシートによる工場のセルフチェックも行っています。

- ニチレイフーズに供給する製品の品質、価格、納期が適正水準にある。
- 基本的人権を尊重し、従業員の労働安全確保に努める。
- 環境に配慮した製品・サービスの提供に努める。
- 公正な事業活動を行い、法令を遵守する。
- 情報は適切に管理するとともに、事業活動に関する情報の適時・適切な開示に努める。
- 企業市民として、社会貢献活動に取り組む姿勢がある。

ニチレイフレッシュ 水産品、畜産品の調達における取り組み

「いのちの森」 マングローブ植樹プロジェクト

「いのちの森プロジェクト」とは、環境への配慮と持続的な素材調達を目指して2006年にスタートした、ニチレイフレッシュの取り組みです。一般にえび養殖は、養殖池の開発のために海辺や水辺の森林を伐採、養殖中も配合飼料や薬剤の投与を行い、池では水中に空気を送るために電気や燃料を大量に消費するなど、自然環境に負荷を与えます。

ニチレイフレッシュは、自然の地形を活用し、環境への負荷が少ない養殖である粗放養殖えびの取り扱いに注力し、その収益の一部を養殖池のあるインドネシア/カリマンタン島のマングローブ植林活動に充てています。また、近年ではマングローブ原生林の土地使用権を買い取り、開発による土地の荒廃や環境悪化を防ぐため、植樹による環境再生とともに原生林の維持と保護に努めています。



えび養殖池

「FAチキン」

ニチレイフレッシュでは、「こだわり畜産素材」のひとつとして、病気予防のためのワクチンのみを接種し、耐性菌の発生や残留の不安がある薬剤をいっさい使用しないチキンの飼育法を、国内の生産者とともに確立しました。こうして、誕生したチキンが「FAチキン」です。

また、家畜の体内に入った薬剤の多くは糞とともに排出され、それが土壌を汚染する危険性を伴います。しかし、こうした薬剤を使用しない「FAチキン」は環境に対する影響も小さく、「環境にやさしい」商品です。現在、「FAチキン」の飼育は、日本をはじめブラジル、中国の生産者とともに行っていますが、ニチレイフレッシュでは飼料から出荷までの全過程を監査して、品質管理に努めています。

※FA(Free from Antibiotics)：抗生物質や合成抗菌剤を投与していない



FAチキン

ニチレイグループ生物多様性方針

生物多様性は、生きものが存続していくための基盤であり、未来に引き継いでいかなければならない大切な財産です。私たちの事業は、生物多様性から生み出される多くの恩恵で成り立っていますが、一方でさまざまな影響を与えています。この認識のもと、事業活動による生物多様性への影響を把握し、ステークホルダーの皆様と連携・協働しながら、保全及び持続可能な利用に継続的に取り組んでいきます。

1. 原材料調達においては、お取引先と連携・協働し、持続可能な利用に配慮して生産、漁獲等された素材やその加工品の調達に積極的に努めます。
2. 事業活動に関わる生物資源は、できる限り商品として皆様に提供するとともに、肥料、飼料、エネルギー等への資源循環に心がけ、社会のために最大限活かすよう努めます。
3. 省エネルギー、省資源、3R(Reduce, Reuse, Recycle)、グリーン調達、有害化学物質対策等により持続的な発展が可能な社会づくりを推進し、生物多様性に影響を与える環境負荷の低減に努めます。
4. 自社施設、所有地及びその周辺、原材料調達先の周辺において、生物多様性保全や復元に寄与する活動に努めます。
5. 環境啓発活動、情報発信などを通じて、生物多様性を育む社会づくりに貢献します。

食の安全・信頼

品質保証に関する基本方針

ニチレイグループが提供する食品に係る商品・サービスの品質および安全性を確保することで生活者の健康被害を防止し、グループ全体の品質管理・品質保証水準および顧客満足の維持・向上を図ることを目的として、品質保証に関する基本方針を定めています。

1. 食品関連法令等により要求される事項を遵守すること。
2. 食品の安全・安心に対する生活者・取引先の要求事項を確実に把握し、グループ全体の品質管理・品質保証力を継続的に高めること。
3. 生活者の健康被害を防止するために、食品安全(Food Safety)、食品危機管理(Food Crisis Management)のみならず食品防御(Food Defense)の考え方を取り入れること。

グループの品質保証

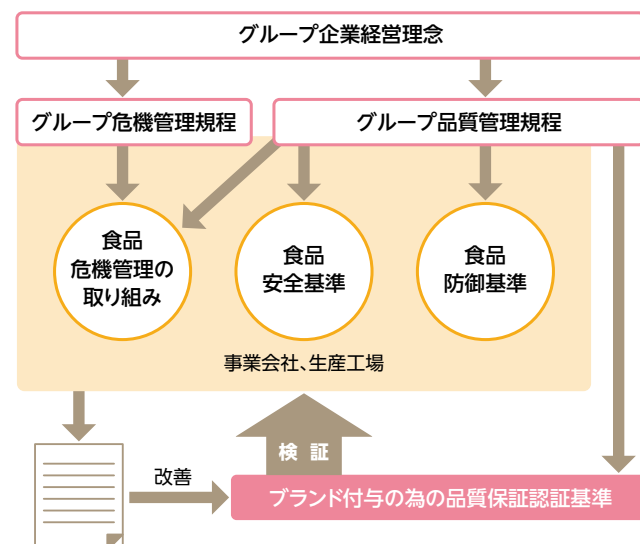
品質管理規程の改正

ニチレイグループでは、グループ企業経営理念にもとづきグループ品質管理規程を制定して、食品衛生上の危害要因と言われている生物的危害、化学的危害、物理的危害の予防活動に重点を置き、食品安全に取り組んできました。

ニチレイグループは食品への意図的な異物混入事件・事故の発生を受け、2014年度にグループ品質管理規程を改正しました。改正のポイントは、「食品安全の取り組みに食品防御や食品危機管理の取り組みを追加した」ことです。

従来、食品安全の取り組みはHACCPシステムの考え方と品質管理マネジメントシステムを融合させた仕組みで運用し

改正されたニチレイグループの品質保証体系



てきましたが、これに意図的な行為から食品を防御する仕組みと健康被害をもたらす事件・事故が発生した際に、迅速に的確な情報を発信する仕組みを付加しました。

これらの仕組みが有効に機能していることを検証するために、ブランド付与のための品質認証のなかで実施する工場審査で各生産工場の評価を行います。不備があれば改善を促し、さらなるレベルアップを目指します。

食品を汚染する危害要因

危害要因	ニチレイグループで設定している原因物質
生物的危害	病原細菌、ウイルス、寄生虫、衛生害虫など
化学的危害	アレルギー物質、自然毒、食品添加物、薬品類など
物理的危害	硬質異物、軟質異物、食品由来不可食部など

ニチレイグループ品質管理規程の三本柱

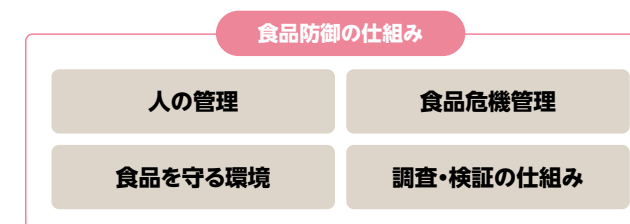
食品安全	ニチレイグループにおける、HACCPシステムの考え方と品質管理マネジメントシステムを融合させた仕組み
食品防御	ニチレイグループでは意図的な異物混入は人が行うものと考えており、その『意図的な行為をする人』の行動を管理・制御する仕組み
食品危機管理	ニチレイグループが提供する食品等で健康被害に直結するような事件・事故が発生した際に、迅速に調査・検証し、適切な手段を用いて適正な情報を発信するための仕組み

食品安全、食品防御の取り組み

食品安全、食品防御の仕組み

ニチレイグループは、『人間による意図的な異物混入』から食品を守ることを目的として、グループ品質管理規程に食品防御の取り組みを追加しました。食品を守るためには『人間の行動を管理する』のが最善の手段と考え、人の管理に重点を置いています。許可された者しか食品を扱うエリアに入場することができないようにしたうえで、『いつ、誰が、どこに居た』のかを特定できるようにしています。

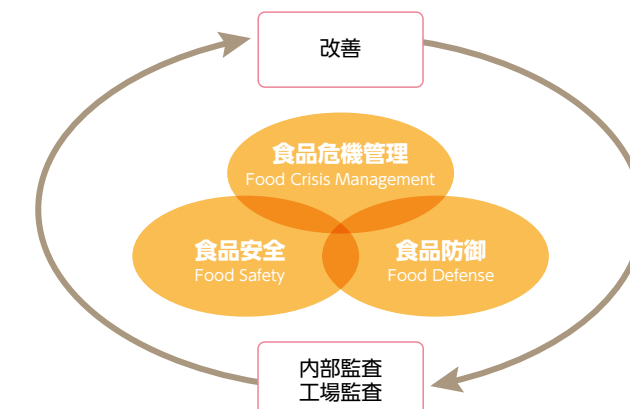
食品防御基準の考え方



商品特性に応じて食品安全と食品防御の仕組みをつくり、意図的な異物混入事件・事故が発生した際に迅速に調査・検証し、適正な情報を発信する仕組みを付加して、三位一体の仕組みとしました。

品質マネジメントシステム内部監査や工場監査でこれらの仕組みが有効に機能していることを検証し、不備があれば改善を促し、さらなるレベルアップを目指します。

ニチレイグループ品質保証の検証サイクル



ニチレイフーズ船橋第二工場の食品防御の取り組み

ニチレイフーズでは、食品防御に関して4つの原則を設けており、船橋第二工場はそのモデルケースとなっています。

第一原則では、ニチレイフーズが最も大事であると考えている「従業員との『信頼関係』をつくる」取り組みをしています。

2008年度より工場ですべて働く方を「新人さん」と呼んで、いち早く職場環境に慣れるように従業員全員で「目配り」「気配り」「心配り」を行い、「新人さんを守ろう」の取り組みを全工場ですtartしました。2009年度からは、従来から取り組んでいた改善活動の名称を「『いいこと』改善活動」と改め、従業員からの提案や改善活動を奨励し、褒賞する活動を始めました。

また、経営層と現場第一線の従業員との対話集会「あぐら」を2011年度より始めました。

「あぐら」とは従業員の階層に関係なく経営層と対話をし、現場の生の意見を吸い上げたり、経営層の考えや意思を伝える活動です。

第二～第四原則では「不審者」をいれない」「攻撃」させない」「証明」できる」を掲げ、主に検証カメラやICタグなどの機器類の設置と運用によって管理しています。



「『いいこと』改善活動」全国大会の様子



あぐら(経営層と従業員との『対話』)

食の安全・信頼

ニチレイフーズの品質保証

品質保証組織体制の強化

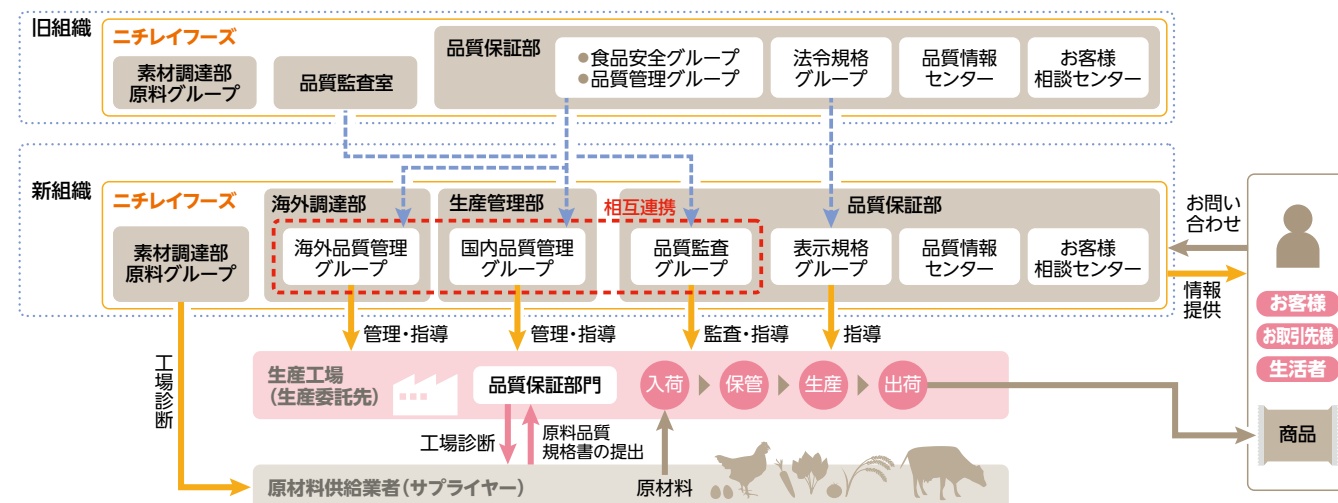
ニチレイフーズでは、2014年度に「品質管理の強化」をより効果的に推進するため、品質保証部の組織を改正しました。

従来、品質保証部に属していた、「食品安全グループ」(主に取引先からの指摘に対応し改善指導を実施)と、「品質管理グループ」(主に生産委託先の品質管理指導を実施)の機能を国内と海外に分け、生産工場の主管部署である

生産管理部に「国内品質管理グループ」を、新設した海外調達部に「海外品質管理グループ」を組織しました。加えて、独立していた「品質監査室」は「品質監査グループ」として品質保証部に移管し、監査機能を一元化しました。

この機能の移管により、上流工程からの管理が可能になり、移管前の「最終的なチェックによる管理モレ防止」から「生産段階での確実な管理」の実現を推進しています。また、品質保証と品質管理の役割を明確にすることにより、品質マネジメントのさらなる強化を図っています。

ニチレイフーズの品質保証体制

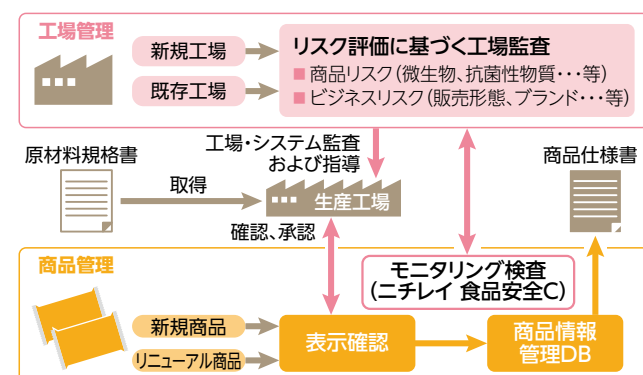


ニチレイフレッシュの品質保証

品質保証体制

ニチレイフレッシュでは、工場管理と商品管理を柱に、品質保証体制を構築しています。そのベースとなるのが、リスクマネジメントの視点から商品リスク、ビジネスリスクの大小を合

ニチレイフレッシュの品質保証体制



理的・客観的に評価する「リスク評価」です。

新規工場と取引引きを開始する場合は、リスク評価結果に従い事前監査を実施しています。このほか、既存の工場には年度ごとのリスク評価結果にもとづいて定期監査の年間計画を作成し、食品安全、食品防御の両面から監査・指導を実施しています。

さらに、FAシリーズなどのこだわり素材を取り扱う工場については、加工工場だけでなく生産工程全般(養殖場、飼料工場等)にわたるシステム監査を実施しています。

また、お客様への正確な情報提供のため、新規商品、リニューアル商品は品質保証部による表示確認の後、商品情報とともにデータベースにて管理を行い、各種商品仕様書の作成に活用しています。さらにリスク評価結果にもとづき、定期的に微生物・抗生物質などのモニタリング検査を実施しています。

ニチレイグループのブランド審査制度

ブランド審査制度

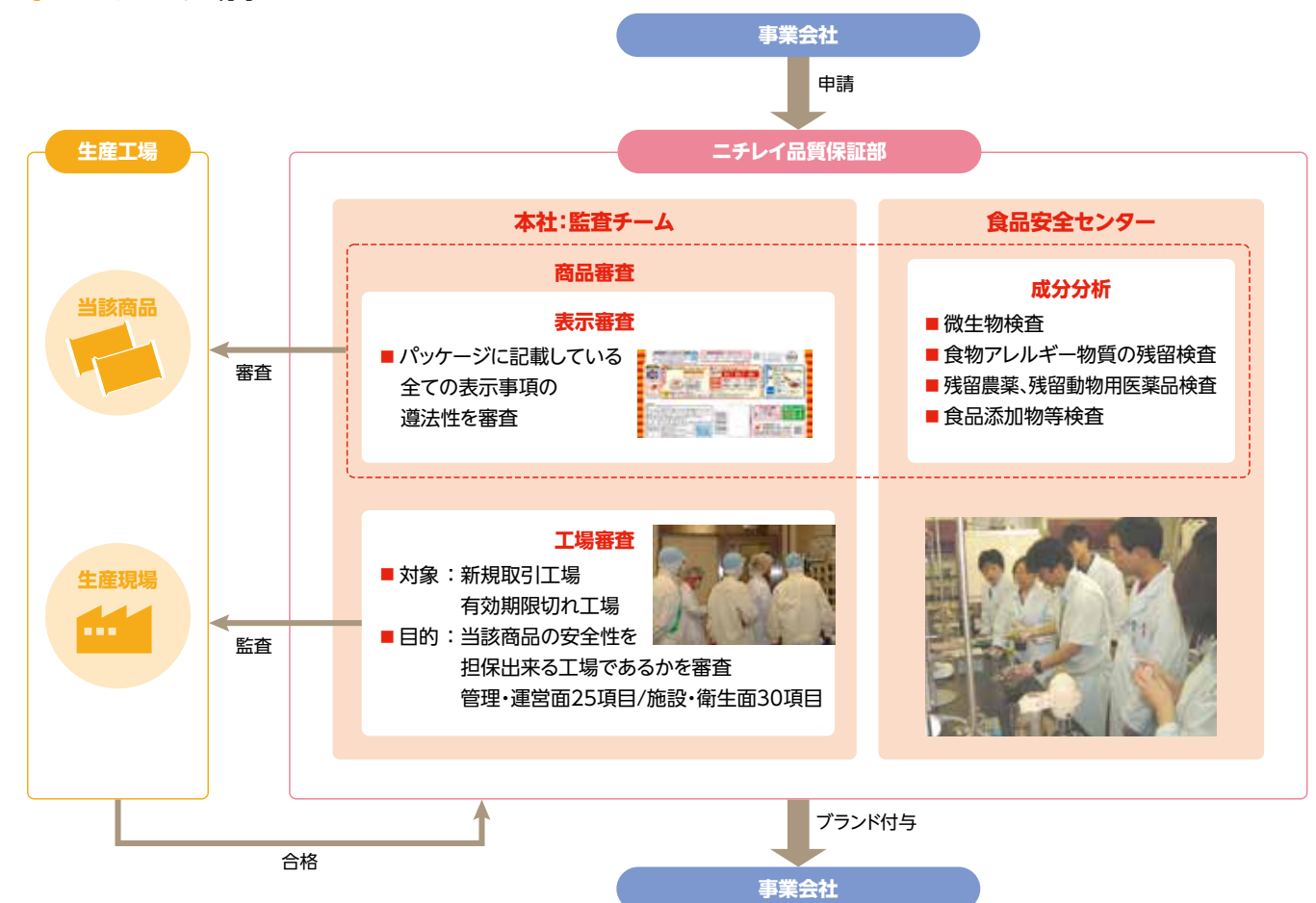
ニチレイグループでは、品質保証に関する基本方針および食品安全・食品防御・品質管理に関する規程・基準などに沿って、各事業会社は業務内容に応じた品質管理・品質保証の活動を行っています。

ニチレイ品質保証部は、お客様からの食品に関する安全性や品質に対する信頼にお応えするためにブランド付与のための品質認証の取り組みとして「ブランド審査制度」を設けています。

この「ブランド審査制度」は、商品審査と工場審査から成り、各事業会社が新たにニチレイブランドを付けた商品の生産を開始する前に実施します。

当該商品自体の安全性を検証するのが商品審査であり、生産現場に足を運んで品質監査を行うのが工場審査です。この2つの審査に合格した商品だけが、ニチレイブランドを付けて販売できる仕組みになっています。

ニチレイブランドが付与されるまで



工場審査の内容

- ▶ 事業会社による事前調査・指導の後、専門教育を受けた工場審査担当者が必ず対象工場におもむいて審査を実施。
- ▶ 審査内容は管理・運営面25項目、施設・衛生面30項目から成り、細分化した150ポイントをチェックする。
- ▶ 管理・運営面、施設・衛生面の両面で合格とならなければニチレイブランドを付けた商品の生産はできない。

工場審査の一例(以下のポイントを調査)

項目	ポイント	評価
アレルギー管理が適正に行われる仕組みがあるか	①当該工場の生産品に含まれているアレルギー情報を原材料規格書や商品仕様書などで検証し、それらを適正に管理する仕組みを構築しているか	5段階
	②人のアレルギー反応やアレルギー管理の必要性について従業員教育が行われているか	

働きがいの向上

ニチレイグループは、ミッション・ステイトメントの実現に向け、CSR活動の基本方針「6つの責任」(P4)のひとつとして「働きがいの向上」を推進しています。

方針(企業経営理念:従業員により)

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員の個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。

働きがい向上基本方針

○「社員重視の職場づくり」

「顧客満足度(CS)向上と従業員満足度(ES)向上は車の両輪である」との基本理念に基づき、ニチレイグループで働くすべての従業員が自分の職場や仕事に誇りを持ち、上司との信頼関係の下、意欲を持って働き、持てる能力を最大限に発揮できる職場環境を整備する。

1. 能力開発と能力発揮の機会の提供
2. 能力と努力と成果に見合った処遇制の実施
3. 安全で風通し良く活性化された職場環境づくり
4. 性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関する差別的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現

○「ダイバーシティの推進」

ダイバーシティ(異なる属性(性別、年齢、国籍等)や異なる発想・価値を認め、従来と異なる新しい考え方や価値意識を受け入れるだけの許容力を、企業革新の一つの原動力に変えること)の推進を通じて、労働力(人財)の確保、従業員の働きがい・生きがいの向上、さらには新たな発想や価値の創造の実現を目指す。

従業員に対する各種調査と施策

グループ全体の考え方

ニチレイグループでは「企業の成長は従業員一人ひとりの成長の総和」であるとの考えのもと、第一線の現場で働く従業員のモチベーションの向上と活力ある組織の実現を目指し、「調査の実施→調査結果の分析・フィードバック→課題抽出→打ち手の策定・実行→調査実施(打ち手の検証)」というPDCAサイクルを回しています。

ニチレイフーズ モチベーション調査

ニチレイフーズでは、従業員のモチベーションおよび組織風土を定量的・定性的に把握し、課題を見える化した上で解決していくことを目的として、2007年度より「モチベーション調査」を実施しています。8回目となる2014年度の調査では、従来の「会社」「職場」「上司」「仕事」に関する項目に加え、ニチレイフーズのモットーである「ハミダス(とらわれず、明るく)」の理解度・浸透度を確認する項目を加えました。1,616名の従業員が回答した結果(回答率97.5%)、組織におけるリーダーの重要性、現場における「ハミダス」への実感・実践

不足など、新たな課題が見えてきました。これらの課題に対し、リーダーを対象とした教育研修の実施や生産工場におけるパート社員との対話集会を開催しました。今後も従業員が個々の力を最大限に発揮できるような組織風土づくりと業務改革を推進していきます。

ニチレイフレッシュ 「社長と語ろう会」

ニチレイフレッシュでは、職場コミュニケーションの活性化のために「社長と語ろう会」を2012年度より開催しています。2014年度は8月から10月にかけて全国6ヶ所(31会場)において、全社員を対象に階層別に開催しました。

1回当たりの参加者は少人数による開催で、事前に実施したアンケート調査も参考に、現状の課題や各人の日ごろの意見を中心に、社長と参加者一人ひとりが自由に話し合う場を設け、参加者全員とのコミュニケーションを図りました。

「語ろう会」の総括は社長がレビューし、課題の改善や改革に向けて迅速に取り組んでいます。



「社長と語ろう会」の様子

ニチレイロジグループ 従業員満足度(ES)調査

ニチレイロジグループでは、従業員満足度(ES)向上、「働きがいのある職場づくり」の取り組みとして、2005年度より調査やインタビューを実施し、結果をもとにさまざまな施策を進めてきました。

2014年度は、2013年度に実施した「働きがい・ES調査」の結果をもとに各職場において検討会を実施し、「働きがいのある職場づくり」への取り組み施策の立案、運営施策への反映に加え、個人の具体的な行動目標を策定し、実施することにより全従業員の取り組みにつなげました。また、調査結果から得られた「働きがい実感の高いセンターでの取り組み事例」、「コミュニケーションガイドブック(『STEP!』)の活用事例」等を発信・共有することで、継続的な活動を推進しました。2015年度は「働きがい・ES調査」を実施し、これらの取り組みによる効果を検証・分析することで、さらなる「働きがいのある職場づくり」を推進していきます。

ニチレイバイオサイエンス 従業員総合意識調査

ニチレイバイオサイエンスでは、「働きがいを向上させるためには、会社と従業員双方の意識と行動の改革が必要である」という考えのもと「従業員総合意識調査」を隔年で実施しています。この調査結果をもとにして、経営層と従業員双方向

ダイバーシティの取り組み

グローバル人財戦略

ニチレイフーズは、中期経営計画(2013年度～2015年度)における海外事業戦略にもとづきグローバル人財の採用・育成を進めています。

グローバル人財の採用

ニチレイフーズの新卒採用に関しては、中国・タイ・インドネシア・ベトナムやブラジルからの留学生を採用するとともに、留学経験がある人財や海外志向の強い人財の採用を強化しています。また既に海外で活躍した経験・能力を持つ人財のキャリア採用も進めています。多様な人財が『個』を活かしていくことで、独自の価値ある商品・サービスを創り出し、生活者の課題解決に取り組んでいます。

グローバル人財の育成

国籍は多様化するものの、ニチレイフーズの求めるグロー

の意見交換を促進する機会を増やしたり、従業員同士のコミュニケーションを向上させるための施策や研修を実施することで、各指標は上昇しています。また、2014年度より社内表彰制度も導入しました。今後も「従業員総合意識調査」を活用することで、理念・ビジョン・行動指針などの共有とあわせ、「湧き立つような」職場づくりに取り組んでいきます。



社内表彰の懇親会の様子

ニチレイ 従業員満足度(ES)調査

ニチレイでは働きがいを高める施策の立案において、より具体的な検討ができるように「サイコメトリクス(心理統計学)」の手法を用いて従業員満足度(ES)調査を実施しました。調査結果の解析により、「満足」「不満」という結果がどのような感情と結びついているのか、またその感情と強い結びつきのある要因は何かを把握する事が可能となり、得られた結果をもとに各部署が主体的に具体的な打ち手を考案し、実行することで働きがいを高めていくこととしています。

また、調査結果は定量的に把握することができるため、数値の変化を経年で追い、打ち手の効果が現われるかについても都度確認し、働きがいのある職場を従業員自らの手で作っていきます。

バル人財像は『国内外で活躍できる人』であり、決して海外だけの要員とは考えていません。この視点にもとづき、ニチレイフーズは、グローバル人財育成プログラムを実施しています。

障がい者雇用

ニチレイグループは、ノーマライゼーションの大きな流れの中で、多様な人財活用の一環として、積極的に障がい者雇用を進めています。

ニチレイ本社、特例子会社*の(株)ニチレイアウラおよびグループ主要8社を加えた10社合計での2014年度障がい者雇用率は2.36%(法定雇用率2.00%)となっています。

ニチレイアウラにおいては、30名の障がい者(知的障がい者28名、精神障がい者2名)を雇用し、グループ各社・各事業所から業務を受託し、清掃、緑地管理、機密書類裁断、郵便物仕分け・発送等の業務を行っています。

※特例子会社：障がい者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社を一定要件のもと設立し、厚生労働省の認可を受けた会社。

環境への配慮

ニチレイグループでは、グループ環境方針、グループ生物多様性方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

グループ目標

地球温暖化防止の2015年度目標(2013年度～2015年度)

電力使用量 : 2009年度比 5.5%削減

燃料由来CO₂ : 2009年度比 7.5%削減

* 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー

* 比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新設等による増減は含めない)

持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率

99%の達成・維持

中期目標と実績

重点課題1：地球温暖化防止

気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして事業所におけるCO₂排出削減に取り組んでいます。

中期目標(2013年度～2015年度)は、2011年の震災以降、火力発電の増加により電力排出係数が大きくなり、電力使用量を削減してもCO₂排出量が減少するとは限らない状況となっています。そのため、ニチレイグループでは、電力使用量そのものと燃料由来CO₂排出量の2つに分けて削減目標を設定しました。

対象は、基準年である2009年度と直接比較が可能な事業所としています。

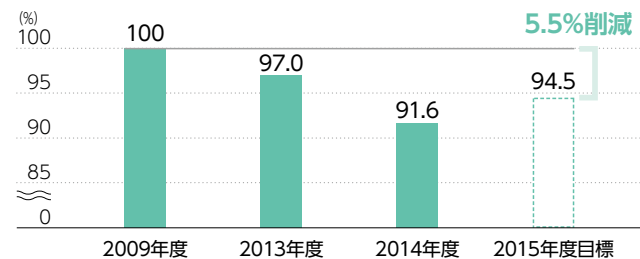
新設事業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、事業会社の状況に合わせて個別に目標を掲げています。

2014年度の既存事業所における電力使用量は、各事業所でLED照明の導入推進などの設備更新や機器の効率運転などの運用見直しなどに取り組んだ結果、2013年度比で5.6%、2009年度比で8.4%削減しました。また、2014年度の既存事業所における燃料由来CO₂排出量は、食品工場のボイラー燃料転換などが成果を上げ、2013年度比で2.9%、2009年度比で8.4%削減しました。

2014年度のグループCO₂排出量は、電力排出係数の上昇、事業所の新設などにより2009年度比で25%増加しました。しかしながら、係数を固定して比較した場合は、2%の削減となっています。

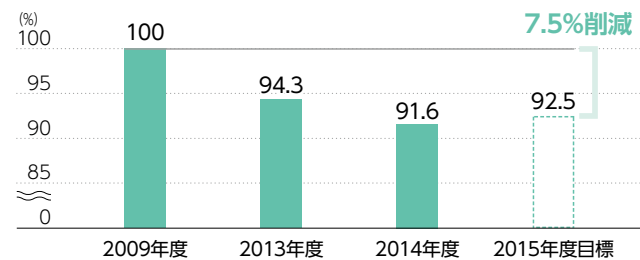
さらに、ニチレイグループではサプライチェーン全体での排出削減に取り組み、社会全体での排出抑制に貢献していきます。

既存事業所電力使用量



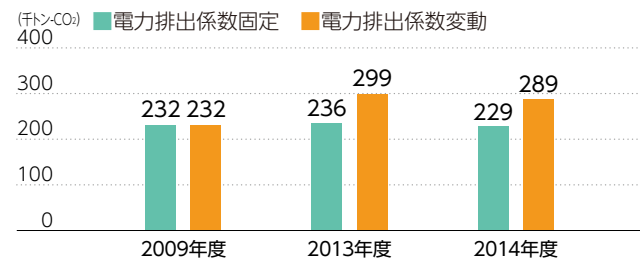
1 2009年度を基準年(100%)としている。
2 新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度：446GWh、2013年度：455GWh、2014年度：439GWh

既存事業所燃料由来CO₂排出量



1 2009年度を基準年(100%)としている。
2 新設事業所を含む総排出量は、2009年度：41,390トン*、2013年度：41,090トン*、2014年度：41,350トン
※昨年度報告値を一部修正しています。

ニチレイグループCO₂排出量の推移



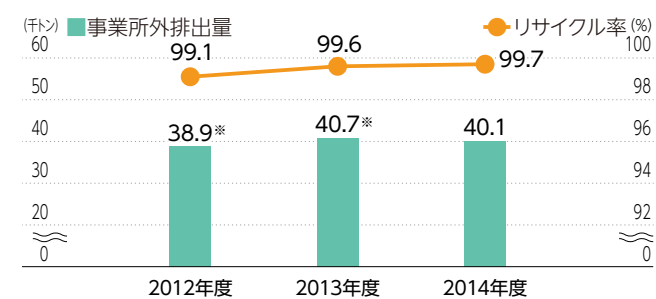
1 電力排出係数固定：CO₂排出量算定のための算出係数を2009年度に固定した場合
2 電力排出係数変動：上記を地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき変動させた場合

重点課題2：持続可能な資源循環の推進

限られた地球上の資源をできるだけ継続的に利用していくため、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”と関わる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の

ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



※昨年度報告値を一部修正しています。

マテリアルバランス

INPUT

原材料 161千トン

原料	145千トン
包装資材	16千トン

エネルギー 4,983千GJ

購入電力	438,673千kWh	LPG	4,487トン
重油	3,314kℓ	ガソリン(社有車)	588kℓ
灯油	189kℓ	軽油(社有車)	1,144kℓ
都市ガス	5,951千m ³	太陽光発電	243千kWh

水 3,781千m³

上水	1,276千m ³
工業用水	638千m ³
地下水(井水)	1,867千m ³

OUTPUT

廃棄物

事業所外排出量	40.1千トン
リサイクル量	40.0千トン
最終処分廃棄物量 ^{※1}	0.1千トン

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

大気系

CO ₂ ^{※2}	289,396トン-CO ₂
SOx ^{※3}	7トン

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出
※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

水系

排水	2,295千m ³	排水負荷量	
下水道	1,453千m ³	BOD ^{※4}	52トン
公共水域(河川等)	841千m ³	COD ^{※4}	16トン

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

1 2014年度実績集計対象事業所はWebに掲載しています。
2 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

社会貢献の推進

社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。

わたしたちは、この考え方にに基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組めます。

食育活動

出張工場見学

2014年度、ニチレイフーズは新たな出前授業『出張工場見学』を実施しました。コンセプトは、「見る!学ぶ!楽しく!」です。ニチレイフーズの社員が講師となり、小学生を対象に、リアルな動画とパワーポイントを使って、冷凍食品ができるまでの製造工程を分かりやすく紹介しました。実際の工場見学でも見られないような映像や、冷凍食品クイズを盛り込みながら楽しく学べるプログラムです。動画を見る子どもたちの真剣な眼差しと笑顔のあふれる楽しい出前授業となりました。



出張工場見学の様子

妊婦さんとそのご家族をサポート・応援する「ひまわりの会」への支援

ニチレイフーズでは、NPO法人ひまわりの会の活動に賛同し、2007年より支援しています。

ひまわりの会は、内閣府、文部科学省、国土交通省、警察庁、全国知事会、日本医師会、日本看護協会などからの賛同により、全国各自治体の母子保健を担当する方々の協力で創設されました。2006年から、全国47都道府県の各市町村、および保健所において、年間約100万人の新生児とその家族の方々を対象に、妊婦さんと赤ちゃんの交通安全を守る「自動車用マタニティステッカー」の入った冊子の配布を行っています。また、ホームページを通じ、全国の知事をはじめ各界のリーダーの方々からのメッセージの発信を行うとともに、2014年からは、スマートフォン用の「母子健康手帳アプリケーション」を無償で提供しています。

ニチレイフーズでは、マタニティマークの普及活動やデジタル母子手帳の配信などの活動を通して妊婦さんとそのご家族をサポート・応援してきました。2015年度には、食事作りや栄養管理も大変な妊婦さんを応援するため、「冷凍食品を使って手軽にできるレシピ」を開発し、上記「母子健康手帳アプリケーション」内に掲載し応援していきます。



マタニティパスポート

物流に関する教育

社会科見学の受け入れ

ニチレイロジグループでは、周辺地域の小中学生を中心とした社会科見学を積極的に受け入れています。

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

都城物流センターでは、2014年7月14日に都城市立今町小学校の生徒さん23名を対象に、見学会を実施しました。今回の見学会は、同校より「地域の工場・施設の探検」という課外活動の一環として依頼をいただきました。

見学会では、ニチレイグループの事業概要や物流の役割に加えて、南九州地区から多くの農畜産品が全国に発送されていることを説明しました。また、冷蔵倉庫内では、初めて体感する寒さに驚きながらも、濡れタオルを振り回す実験で棒状に凍ったタオルを見て歓声が上がっていました。



社会科見学の様子(都城物流センター)



(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

小樽物流センターでは、2014年7月18日に小樽市立高島小学校の生徒さんを対象に、見学会を実施しました。

見学会では、はじめに物流センターの主な役割について説明しました。続いて冷蔵倉庫内では、冷凍保管されている貨物の見学や、-25℃にもなる環境ではシャボン玉や濡れタオルがどうなるか、実験を交えて説明しました。見学後の質疑応答では、普段はなかなか目にすることのない冷凍貨物について、小学生らしい率直な質問が挙がりました。



社会科見学の様子(小樽物流センター)

環境保護活動

植林活動への取り組み

ニチレイグループでは、地域の植林活動によるCO₂削減や地域自然保護活動に取り組んでいます。従業員自らの実体験や、NPO法人などの外部機関とのコミュニケーションを通じて、気づきを得ることが重要と考えています。

2014年度の主な活動

	場所	主催	内容	
東京グリーンシップ・アクション	東京都	東京都	雑木林の下草刈り	ニチレイ
「うるおいの森」活動	東京都	一般社団法人 地域パートナーシップ支援センター	下草刈り	ニチレイ
蔵王のブナと水を守る会 ブナの森づくり	宮城県	NPO法人 蔵王のブナと水を守る会	枝打ちと間伐	ニチレイフーズ 白石工場
お魚殖やす植樹運動	北海道	北海道漁業協同組合連合会 雄武漁業協同組合	植林	ニチレイフレッシュ

コンプライアンスの徹底 コーポレートガバナンスの確立

行動規範

1999年4月に制定した行動規範は、日本国内のみを視野に入れた内容であり、グローバル経営を展開する上で、内容そのものがそぐわなくなってきたことから、2014年4月にニチレイグループ全体のコーポレートガバナンスの強化および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を図ることを目的として「国内外統一版の行動規範」を制定しました。今回の改定では、国連グローバル・コンパクトの4分野10原則なども参考にして「人権の尊重」を新たに項目立てして第一優先に位置づけています。また、グローバルコンプライアンスの視点で重要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力との関与、取引の禁止」なども盛り込みました。

ニチレイグループの行動規範目次（2014年4月改定）

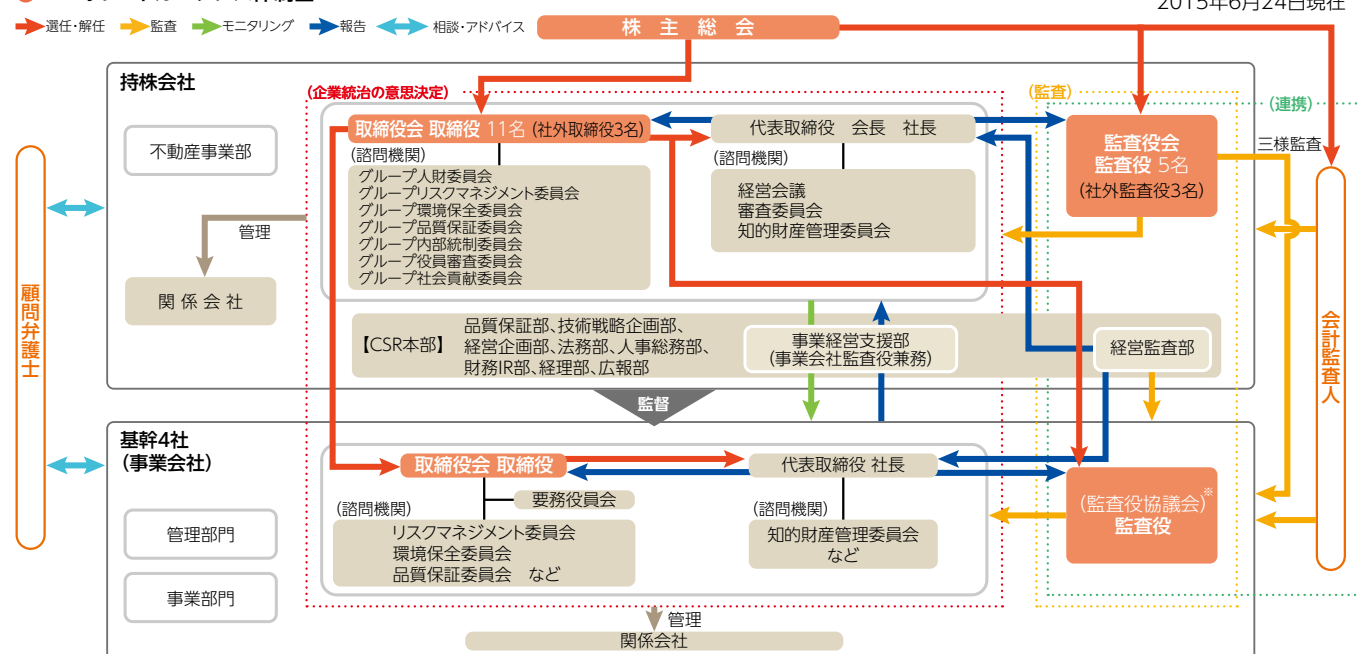
1. 人権の尊重・労働に関する法令の遵守
2. 環境保全への取り組み
3. 法令および社内規程の遵守
4. 会社財産の管理と保全
5. 会社財産の私物化の禁止
6. インサイダー取引の禁止
7. 財務情報の信頼性の確保
8. 情報の管理と利用
9. 会社の利益と相反する個人の行為の禁止
10. 公務員、取引先などとの不当な利益の授受の禁止
11. 反社会的勢力との関与、取引の禁止
12. 行動規範の遵守と報告・相談について

業務執行・経営監視

監査役設置会社制度を採用するニチレイでは、経営の透明性向上と経営監督機能の強化を図るため、取締役の任期を1年とし、社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締役会を開催しています。社外取締役は、経営陣からは独立した立場で、経営に関する各種案件を審議するとともに、グループ戦略や業務執行に関するモニタリングを行っています。監査役は財務・会計に知見を有する人材を選任するとともに、経営陣から独立した立場にある社外監査役を置くほか、両代表取締役が、取締役会とは別に監査役会に対しても定期報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たす仕組みを構築しています。また、各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモニタリング機能を強化するため、持株会社であるニチレイの組織に事業経営支援部を設置し、各社の非常勤監査役を兼務するとともに、経営進捗状況などを毎月持株会社へ報告するほか、各社に対し経営のサポートも行っています。

加えて、2015年3月に公表された「コーポレートガバナンス・コード原案」や、関連して東京証券取引所が進めている制度整備を踏まえながら、持続的成長に向けた自律的な取り組みを進めています。

○ コーポレートガバナンス体制図



※ 複数の監査役が監査に関する重要な事項についての報告、協議または決定を行う会議体

第三者意見

ニチレイグループ CSRレポート2015を読んで

重要なトップメッセージ

ニチレイグループは環境やCSRの価値を重視して企業活動に取り組んできたことで定評のある企業です。その特徴はトップメッセージに現れており、品質保証による食の安全・信頼、持続可能な事業活動、働きがいの向上について、大変詳しく具体的に説明されています。トップメッセージがCSRレポートにおいて具体的に示されることは非常に重要で、CSR経営を有効に促進する最も重要な指針であると同時に、対外的な企業への信頼性を増します。

持続可能な調達

ニチレイグループの数多くのCSR活動の中でも、持続可能な調達の活動は特に注目されます。CSRはサプライチェーンあるいはバリューチェーン全体で実施すべきということが世界的な潮流ですが、ニチレイグループの取り組みはその先端を行くものとして、大変重要です。今後は個別活動の紹介にとどまらず、このような取り組みを、どのような基本方針のもとで体系的に進めていくのかについても、開示して頂きたいと思います。調達段階だけでなく、トップメッセージで示されたように、バリューチェーン全体での活動をまとめるのもひとつの進め方と考えます。

共通価値の創造

今年度の報告書では各事業会社が顧客価値の創造ということを取り組みを紹介されています。それぞれ、

神戸大学大学院
経営学研究科教授

國部 克彦



特徴のある取り組みで素晴らしいと思います。今後は、これらの活動がどのような全体的なコンセプトで進められているのか、について説明があればよりメッセージを明確に伝えることができると思います。さらに、「顧客価値」を追求するだけでなく、何らかの社会的課題を解決して価値が創造されるのであれば、それは「共通価値」としてCSR活動の中心に据えることができると思います。

CSRマネジメントの浸透を

ニチレイグループのCSR活動では、環境、品質保証（食の安全・信頼）、働きがいの向上、社会貢献の推進などについては、基本方針が示され、CSRマネジメントが実施されていると見ることができます。今後は、顧客価値の創造や持続可能な調達についても、そのように体系化されることをお勧めします。このような新しい問題については、マテリアリティ（重要性）の分析を実施され、プライオリティを明確にする必要があるでしょう。マテリアリティ分析を通じた価値創造とCSR経営の関係性の強化は、統合報告フレームワークでも見られるように、今後ますます重視されますので、是非検討して頂きたいと考えます。

第三者意見を受けて

國部様には本年度も貴重なご意見を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、6つの責任を軸にCSR活動を進めております。それらの活動のうち、環境、品質保証、働きがいの向上、社会貢献の推進については基本方針が示され、CSRマネジメントが実施されているとの評価をいただき、大きな励みとなりました。またご指摘いただいた、顧客価値の創造や持続可能な調達についての体系化は、既に当社グループ内で開始している取り組みをベースに、今後さらに発展させてゆくことを計画しております。顧客価値を創造することが、ひいては社会的課題を解決する「共通価値」となるよう、ステークホルダーの皆さまと対話を重ねながら、CSR活動の推進に取り組んでまいります。

今後ともご指導賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



(株)ニチレイ
取締役執行役員
CSR本部副本部長

田口 巧